

ソマリア難民診療

A M D A
津曲医師 家族らに送られ岡山出発

飢餓に苦しむアフリカ東部の国・ソマリア難民の救援のため、アジア医師連絡協議会（A M D A）本部岡山（津曲兼司医師）が二十一日、岡山を出発した。難民が流入しているケニアに向け二十三日、成田空港から飛び立つ。

午後二時半過ぎ、J R 岡山駅ホームに見送りの妻美幸さん（三三）、長男大生ちゃん（生後四カ月）のほか、A M D A の菅波茂代表（四三）、看護婦ら十数人が駆け付け、津曲医師を見送った。

津曲医師は

二十三日午後、成田空港を出発し、ケ

ニアで他の民間海外援助団体（N G O）非政府組織）メンバーと合

流。東北部のマンデーラ県の診療所を拠点に約二週間、医療活動を展開。ソマ

リアにも入り、巡回診療をする。

今回の援助は、A M D A



ソマリア難民援助のため、家族や同僚らに見送られる津曲医師（左）＝J R 岡山駅

成会平和基金（東京）など N G O 五団体で「ソマリア難民救援プロジェクトチーム」（代表・菅波氏）を結成。ソマリア、難民が流入しているケニアとシブチに医師、看護婦、教師らを約一年間派遣する。医療、教育、井戸掘削、物資運搬などの援助活動を展開し、最終的には約百五十人規模になる見通し。A M D A は主に医療面を担当。約二十五人を順次派遣する予定。

津曲医師は出発前の新幹線ホームで、「これまで培った経験を生かし、飢餓に苦しんでいる人々を助けていらないだけに、私たちの活動は責任が重い」と表情を引き締めていた。

をはじめアフリカ教育基金の会（北九州市）、立正佼